

モンゴルカレッジ 2018

可能性を秘めた若いモンゴル

5月4日

開催場所:
練馬区立光が丘図書館2階 視聴覚室

開場時間:
5月4日(金) 12:30
5月5日(土) 12:30

モンゴル人は日本人とどこが違うのか?
遊牧民としての気質



宮脇 淳子
歴史学者、東洋文庫研究員

モンゴル人は顔は日本人とそっくりですが、日本とは違う風土で生きてきたので、その気質はまったく異なります。日本は稲作をするため村全体が共同作業をしたのに対して、モンゴルは雨が少なく、家畜にたっぷり草を食べさせるため草原に散らばって遊牧生活をしました。他人がすでに放牧した草原には草がないので、他人の真似をせず、独立心と決断力こそがモンゴルの男の誇りです。日本人もそのことを理解してほしいと思います。

13:00

モンゴルで探る遊牧民の歴史
—草原のタイムカプセル《突厥碑文》—



鈴木宏節
青山学院女子短期大学助教

チンギス・カンが《モンゴル》の名をとどろかせる以前、中央ユーラシア草原の遊牧民は《トルコ》語を話していました。その証拠が現在でもモンゴル各地に残っている《突厥碑文》です。本講演では、8世紀の古代トルコ語(テュルク語)が刻まれた、この石碑を中心にユーラシア大陸の歴史を概観します。古代の草原世界を制覇した遊牧国家《突厥》を知ること、モンゴルに現存する歴史文化遺産の多様性を理解していただけましたら幸いです。

14:00

これからのゴビ地域の遊牧を考える～
ドンドゴビ県で2010年に発生したゾドの事例から



中村 洋
地球・人間環境フォーラム 研究員

モンゴル国内でも降水量が時間的にも空間的にも大きく変動するのがゴビ地域です。ドンドゴビ県で行った調査から、ゾドに対して家畜頭数を減らさない対処行動は出張放牧でした。オープンな放牧地利用が必要とされるゴビ地域に対して、北部のハンガイ等の地域ではクローズドな利用が広まりつつあります。ゴビ地域でも家畜頭数の増加や気候変動の進行などにより集約的な牧畜業への期待も高まりつつあります。2010年のゾドの事例から、これからのゴビ地域の遊牧について考えます。

15:05

映像から見えるモンゴルと日本



オユウンチメグ ホンゴルズル
中京テレビ報道局ディレクター

日本のメディアで働くモンゴル人制作者ならではの視点で作られた映像作品を通して、両国関係を考えます。モンゴル抑留に関する貴重なフィルムや冷戦時代のモンゴルと日本をつないだ“ある歌”の誕生秘話など、テレビ初公開の内容が含まれています。制作の裏話を交えたトークも展開予定です。

上映作品タイトル
「知られざるモンゴル抑留」
「折り鶴が見つないだ平和の祈り」
「夢と土俵と草原と ～モンゴル人力士の光と影～」

16:05

先輩が語る～先輩と後輩の交流セミナー

モンゴル人留学生達が卒業し、大好きな日本で抱いた夢の実現を追及しどんな過程を経ているのか、困難をいかに乗り越えているのかなど生きた経験を沢山のモンゴル人や日本人に聞いてもらいたいと考えています。講師が一方的に話すだけではなく、参加者も気軽に質問できるオープンな雰囲気になりたいと考えております。

5月5日
13:00

あなたにとっての日本留学



ミヤグマル アリウントヤー
早稲田大学地域・地域間研究機構
招聘研究員

日本では、モンゴル人留学生が現在2000人を超えています。みなさん、「留学とは何か」について考える機会はあるでしょうか、「どうして重要視されているのか」について、留学を終えて再度聞く機会は殆どないと思います。私としては、私費留学生として日本での生活は長かったですが、社会人として、本セミナーでは、「あなたにとっての日本留学」の観点から「留学の目的達成」について話をしようと考えています。

モンゴル国中央政府及び地方自治体との
交流と具体的取り組み事例の紹介



杉村エルデネハタン
静岡県知事直轄組織地域外交
課外交専門官

1999年、モンゴル国留学生第一期生として、来日しました。民間企業での勤務を終え、日本の公務員としての勤務スタート。今までにモンゴル国との数多くの交流を実現して来ました。モンゴル国中央政府及び地方自治体との交流をスタートさせ、両国の交流に大きく貢献出来ました。静岡県がモンゴル国ドルノゴビ県結ぶ友好協定の環境分野での協力として「ドルノゴビ県の下水道運営能力向上プロジェクト」を実施サポートしています。

大好きな日本に抱いた夢の実現へ



ナムスライ バヤンムンフ
本間組株式会社企画設計部

私は母国モンゴルで日本式高等学校である新モンゴル高校を卒業しました。卒業生のうち、大志を持って日本に渡ってきた留学生は多い。その一員として8年間の在任経験の中で学生、社会人として得てきた経験を後輩たちに伝えられたらと思います。体験談に励まされ、「それぞれが抱くころざし」を新たに、抱いた夢の力強い追及、明確な将来像を思い浮かべてもらえたら何よりです。

担当者
モンゴルカレッジ : オルガマル アリウントヤー 出口英昭
セミナー : スガルスフ

(注) 1. 開催場所である区立光が丘図書館は、モンゴルカレッジと何ら関係がありませんので、図書館には一切問い合わせをしないでください
2. 御講演者の都合によりプログラムが変更となる場合がありますので、御了承のほどお願い致します